



SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS



# 南砺市いなみ国際木彫刻キャンプ × SDGs

2022年8月策定

2023年1月改訂

南砺市いなみ国際木彫刻キャンプ実行委員会

# 木彫刻キャンプのSDGsへの考え方 （「木彫刻」の力で2030年を豊かな世界に）

南砺市いなみ国際木彫刻キャンプ実行委員会は、「南砺市いなみ国際木彫刻キャンプ」（以下「木彫刻キャンプ」という。）の開催を通して、持続可能な社会の発展に貢献していきます。

国連で採択された2030年までに達成すべき世界共通の目標であるSDGs（SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS「持続可能な開発目標」）には、貧困、福祉、教育、人権、環境など様々な分野の17の目標が設定されています。

このことは、世界は解決すべき様々な問題や課題に直面しており、その要因は私たち「人」の行為、また「社会（地域）」のあり方に行く着くことが多いと考えられています。

木彫刻キャンプは1991年の第1回開催以降、「木彫りを通して世界をつなぐ」というテーマを通して、国内外の多様なステークホルダーとの協働（パートナーシップ）により、国際交流と文化交流の推進、木彫刻文化や産業の継承、深化を進めてきました。

「木彫刻」の作品は、言語、文化の違いを超えて、人々にメッセージや共感を与えることができます。そして、世界中の人々が「木彫刻」を通して等しく交流したり、社会や地域の持続可能な発展を生み出すことを可能にしています。このような私たちの活動は、SDGsの達成に不可欠な「人」、「社会（地域）」を豊かなものとし、今後も持続可能な社会の発展に寄与していると考えています。

**「木彫刻」の力で、ひとりひとりの心や生活、そして社会が豊かになれば世界をそして地球をより良い方向へ動かせる。**

この理念をもとに、2023年に「南砺市いなみ国際木彫刻キャンプ2023」を開催していきます。

# 木彫刻キャンプのSDG s への取り組み

木彫刻キャンプでは、キーコンテンツである**木彫刻**を「芸術文化」及び「産業」の2側面で捉え、SDG s の達成を進めていきます。

「芸術文化」の側面では、芸術文化の持つ「共感を与え心を動かす力」を人々に働きかける形で、

「産業」の側面では、経済活動等によって創出される「活力」を地域（社会）に働きかける形で9つの目標を達成していきます。

また、目標達成のためには、多様なステークホルダーとの連携を欠かすことができません。

2019年に「SDG s 未来都市」の認定を受けた南砺市、なんとSDGsパートナー（※）など、様々なジャンルの団体、個人と連携しながら事業を推進していきます。

（※）南砺市では、SDG s を取り入れたまちづくりに賛同し、自分ごととしてSDG s のゴール達成につながる取組みを市内で実施する企業、団体及び個人を「なんとSDG s パートナー」として登録している。

# 南砺市いなみ国際木彫刻キャンプ2023での取り組み

次の6つのキーワードで事業を実施し、9つの目標を達成します。

## SDGs実現に向けたキーワード

**01 体験**    **02 継承**    **03 発信**    **04 進化**    **05 協働**    **06環境**

# キーワード01 体験



木彫刻キャンプは、木彫刻を通して様々な地域の民族や伝統、文化に触れ、交流も深めるといった日常生活では得難い体験を得ることができる世界的にも稀有なイベントです。

多世代にわたるこの体験の積み重ねが、SDGsの達成に不可欠な「人」、「社会（地域）」の力を高めることにも繋がっていると考えています。

今回のキャンプでも、これまで同様多くの方に木彫刻キャンプに参加いただき、貴重な体験を得ることができるプログラムや環境を提供する予定です。

また、今回の開催は、新型コロナの影響により、近年実施が難しかった若年層の国際理解、国際交流を実現できる貴重な機会でもあります。

## キーワード02 継承



井波の古刹瑞泉寺の再建を由来とする「井波彫刻」、これまで社寺彫刻から民家の室内彫刻、近年の彫刻ギターの制作など時代の流れに合わせて発展し、継承され現在に至ります。

発祥から約250年、その間「井波彫刻」は地域社会や地域の営みの形成に大きな影響を与えてきました。「井波彫刻」の継承することは、これからも地域が持続可能であるために重要な意味を持つと言えます。

過去の開催においても、多くの幼児、学生、生徒などが、木彫刻キャンプに来場、参加することで、井波の「彫刻文化」を意識し、考える機会を提供していきました。

今後同様の取り組みを行い、「彫刻文化」を根ざした豊かな社会づくりを進めます。

また、今回の開催では、次世代への木彫刻文化の継承を目的に、大学生による木彫刻の制作（チャレンジ枠）を実施予定です。

# キーワード03 発信



前回（2019年）の木彫刻キャンプ以降、生活様式を一変させ、未だに大きな影響を及ぼしている新型コロナウイルスの存在、緊迫した状況が続く世界情勢など、わたし達を取り巻く社会は今大きな変化に見舞われています。

こんな時代だからこそ、「木彫りを通して世界をつなぐ」という木彫刻キャンプの不変のテーマを改めて意識し、強く発信していく必要があると考えています。

今回の木彫刻キャンプでは、「KIBOU（希望）」という作品のサブテーマを設定しました。個々の作家の創出する多くの「KIBOU」を井波から発信し、これからの世界が明るく豊かなものになるための発信を積極的に行っていきます。

キャンプでの制作作品は、従来の市内の公共施設だけでなく、民間施設や市外での設置も検討し、多くの方に作品に触れていただける機会を増やすことを検討しています。多くの方に作品を見ていただく機会を増やすことで、発信力の強化に努めていきます。

# キーワード04 進化



今回の木彫刻キャンプは9回目の開催となります。  
第1回以降、内容、手法等に改良を加えながら開催を重ねてきました。

今回のキャンプでは、ICT技術を積極的に活用した準備、運営に取り組む予定です。  
新型コロナウイルス対策として、また、過疎化が進む地域における効率的なツールとしてICT技術を活用し、持続可能なイベントや地域の実現を目指します。

また、木彫刻キャンプは、多様なステークホルダーが一同に会する機会でもあります。  
彫刻作家、来場者との対話や交流、シンポジウムなどを通して、木彫刻と地域の未来についてともに考え、進化の道を探っていきます。

期間中のイベントは、従来の事業内容、成果を検証しつつ、木彫刻や地域に十分な効果をもたらすことができる新規事業を積極的に計画、実施（サポートも含む）していきます。

# キーワード05 協働



木彫刻キャンプは、ノンコンクール形式の屋外制作イベントとしては世界最大の開催規模を誇ります。なぜ、人口が10,000人に満たない地域で、世界的規模のイベントが開催可能なのか？それは、住民を中心に多くのボランティア参加により、木彫刻キャンプは運営されてきたからです。

今回も、多くのボランティアスタッフの方に参加いただく予定です。また、新たなパートナーとして大学生、南砺市応援市民、なんとSDGsパートナーとの協働も予定しています。これらの協働は、木彫刻キャンプの期間中だけでなく、今後の地域づくりを進めるなかでも有効に機能する協働となります。木彫刻キャンプが、新たに地域づくりのきっかけとなることを目指します。

企業版ふるさと納税やガバメントクラウドファンディングといった制度を活用し、想いを事業に活かす仕組みづくりも進める予定です。

ICTを活用した情報の発信により、多様なステークホルダーとの情報共有を強化することで、だれもが参画できる効果的なイベント運営を行います。

# キーワード06 環境



森林を多く有する日本（南砺市）では、土砂災害の防止、水源の涵養、生物多様性の保全などの森林からの恵みを得るとともに、森林から伐れる木材で建物や道具を作り、木に親しむ暮らしをしてきました。250年を超える歴史を持つ「井波彫刻」も、その特徴を活かした産業であると言えます。

近年「森林」の機能低下が大きな課題となっています。  
様々な要因がありますが、「国内の木材の使用量の減少」、それに伴う林業従事者の減少などにより、森林の管理が行き届かなくなっていることも要因の一つです。

今回のキャンプでは、全て国産木材を使用し作品を制作します。  
木彫刻を行うことが、「木材の使用（彫刻）」⇒「使用した分の木を新たに植林・育成」⇒「成長した木を伐り、再び木材として使用（彫刻）」という「森林の維持・再循環」に寄与していることを改めて意識し、広く周知する機会となることを目指します。

期間中は、木材の端材を活かしたワークショップを期間中に開催するなど、木材の有効活用にも積極的に取り組んでいきます。また、ICTの積極的な活用、環境に優しい素材でのノベルティの作成など、環境に優しく、持続可能なイベントの実施を目指します。